

地域産業の担い手育成プロジェクト事業(みやぎクラフトマン21)

○ 実施期間 平成19年度～21年度

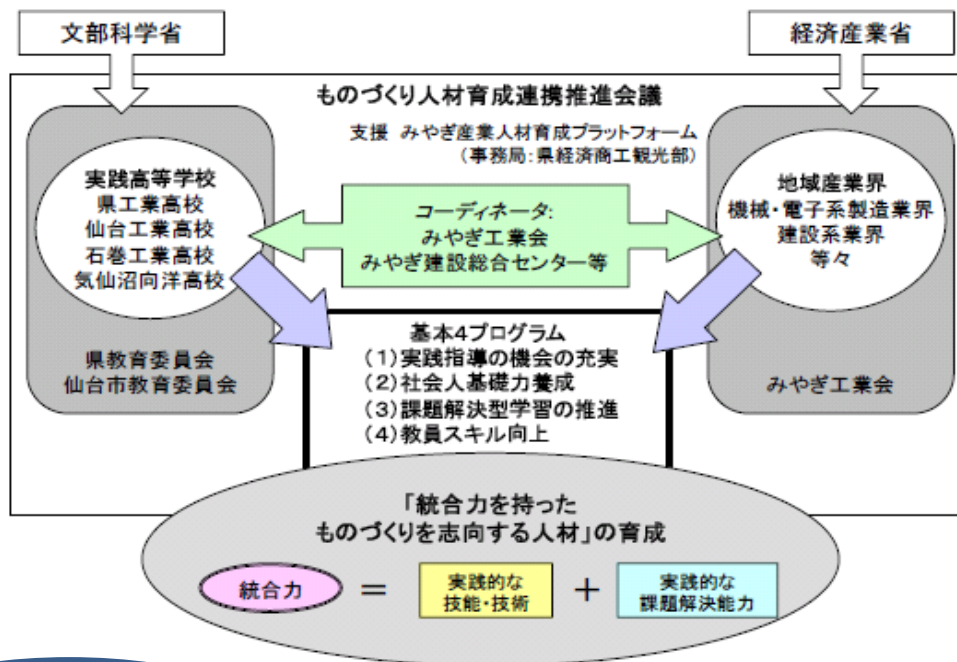
- 実施校 ① 宮城県工業高等学校 ② 仙台市立仙台工業高等学校
③ 宮城県石巻工業高等学校 ④ 宮城県気仙沼向洋高等学校

○ 事業目的 『ものづくり中核人材の育成・確保及び技能・技術の伝承に向けて』

① ものづくりを志向する人材の確保

② 統合力※を持つ人材の養成

※ 統合力＝「技能と課題解決能力を組み合わせた総合的な価値創造力」を意味する造語



3年間の実績

主な実践プログラム

■企業内実践プログラム

- ・工場見学
- ・入門インターンシップ (3日～5日程度)
- ・弟子入りインターンシップ (10日～2週間程度)
- ・デュアルシステム (20日～2か月)

■学校内実践プログラム

- ・授業支援 (技術指導・社会人講話)
- ・資格取得指導, コンテスト支援
- ・教員向け技術研修

ステージ	H19 《ホップ》 スタートの年	H20 《ステップ》 体系化と新たな チャレンジの年	H21 《ジャンプ》 自立化に向けた 離陸準備の年
生徒の企業実習受入数	290人	469人	458人
企業技術者による 実践指導受講者数	1,078人	1,079人	874人
教員研修受講者数	41人	45人	44人
延べ 715 社(実数 224 社)			

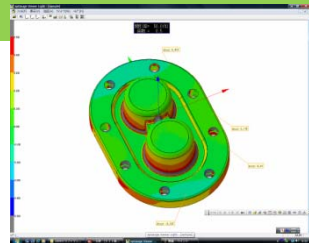
県内高校生の技能検定合格者数の伸び (生徒の意欲及びスキル向上の波及)

	H16	H17	H18	H19	H20	H21
県内全校	32 (0)	45 (2)	51 (3)	121 (2)	188 (6)	292 (11)
実践4校	データなし		45 (3)	109 (2)	140 (2)	128 (8)

特徴的な事例

○ 3D-CAD/CAM教員研修

- ① 3D-CADによるモデリング, CAMデータ作成
- ② 公設試のマシニングセンターで鋳型作成
- ③ 成果品は生徒の鋳造研修で使用



→ 最新技術だが企業では既に必須の技術, という部分について, 企業や公的機関の手を借りることで教育プログラム化を実現。

本プログラムは翌年から県教育研修センターの研修として採用。

④

○ 企業の開発プロセス実習

電卓プログラムを題材に, 仕様書・状態遷移図の作成及びレビュー, コーディング (VC++) , テスト, 果てはデバッグと, 企業の開発プロセスの流れを体験できる密度の高い講義と演習



→ 高度なシステム開発ではプログラミングそのものよりも, 分析と設計の工程が重要になるが, 普段学校では勉強できない。これを体験することで, 技術取得のみならず職業観を養うことも狙いとする。

③

○ デュアルシステム

① ②

ゼネコン, 建築士事務所, 工務店など多彩な職場に, 原則として週1回通勤して実習を行う。

→ ゼネコンの例では, 施工中のS造 (一部SRC造) 10階建てのビル新築工事現場において, 現場管理全般を学習。

設計事務所の例では, 建築設計の実習。コンテスト応募作品も実習の中で作成し, 見事受賞するなど著しい技能の伸長が見られた。



○ 保育所基本設計

市が新築する公立保育所の基本設計を高校生が受注。制度研究, 現場見学, 現地住民からのヒアリング, 建築士による建築設計講習を経ての設計。



最後に11種類の案でコンペを開催し, 採用案を決定した。

→ 行政機関が題材を提供し, 民間企業が技術力を補うという,

